

一般国道9号(山陰自動車道) 益田道路(久城～高津)に係る新規事業採択時評価

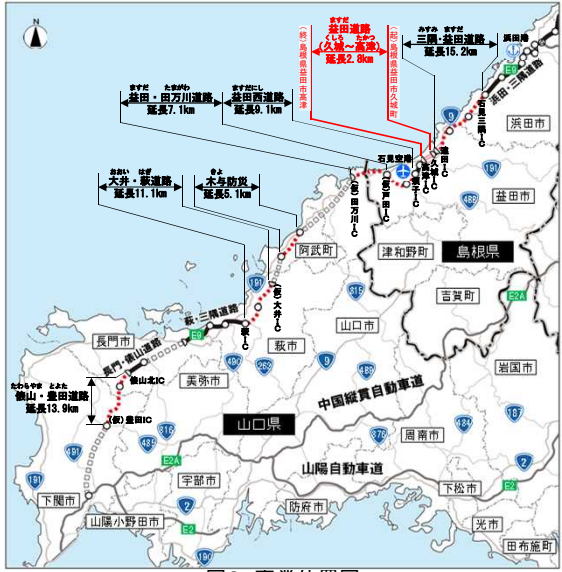
- ・現道の課題を回避し、災害時の救援活動等においても機能する信頼性の高い道路ネットワークを確保。
- ・高次救急医療機関へのアクセス性向上により、救急搬送などの救急医療活動を支援。
- ・主要な拠点施設間の速達性や定時性を確保、物流の効率化による地域産業を支援。

1. 事業概要



・起終点：島根県益田市久城町～島根県益田市高津
 ・延長等：2.8km
 (第1種第2級、暫定2車線、80km/h)
 ・全体事業費：約260億円
 ・計画交通量：約11,800台/日

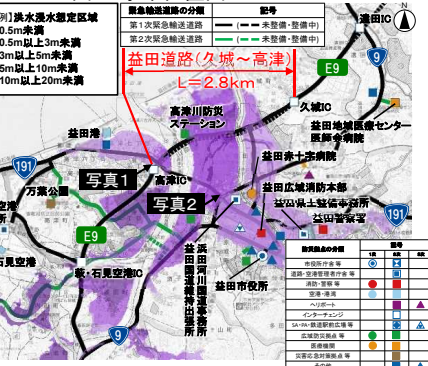
乗用車	小型貨物	普通貨物
約5,400台/日	約1,700台/日	約4,700台/日



2. 課題

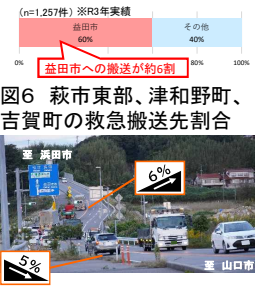
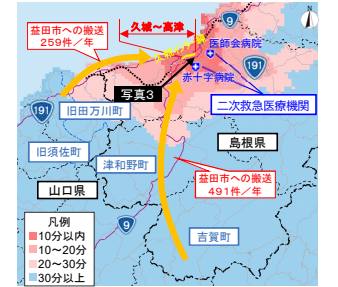
①災害に対して脆弱な道路ネットワーク

- ・国道9号及び国道191号は、緊急輸送道路に指定された、山口県東部と島根県西部を結ぶ重要な幹線路線。
- ・当該区間は両路線の結節点となっているが、高津川及び益田川の洪水浸水想定区域に位置しており、災害発生時には緊急輸送道路が途絶。代替路がなく広域迂回を強いられる。(図3、写真1、図4)
- ・過去にも昭和58年豪雨災害においては、当該区間において約12時間の交通の途絶が発生。(写真2)



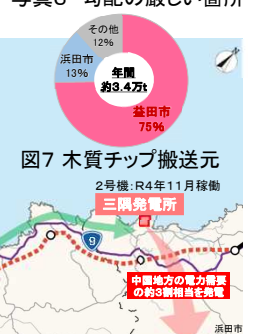
②高次救急医療機関へのアクセス

- ・高次救急医療機関のない萩市東部や津和野町などの重篤患者の救急搬送は、隣接する益田市の二次救急医療機関に依存。(図5、図6)
- ・県道久城インター線を経由するルートが、主要な搬送ルートとなっているが、勾配が厳しく、信号交差点もあることから、緊急車両の速度調整が難しく、患者への負担が懸念。(写真3)



③物流効率化に不可欠な道路ネットワーク

- ・三隅発電所は2号機の稼働により、中国地方の電力需要の約3割相当を発電する計画。再生可能エネルギーの普及・拡大のため石炭に加え年間約3万トンの木質チップを燃料として使用。約8割を益田市から輸送。(図7)
- ・主な輸送経路の、国道9号や国道191号には、主要渋滞箇所が存在し、速達性や定時性など輸送の効率化が課題。(写真4、図8)



3. 整備効果

効果1 信頼性の高い道路ネットワークの確保【◎】

- ・災害による緊急輸送道路の途絶を回避し、広域迂回を解消。

【現況】197分⇒【整備後】102分(約95分短縮)

効果2 救急医療活動の支援【◎】

- ・高次救急医療機関への搬送30分圏域の拡大。
- ・救急搬送時の走行性の向上。
- 医師会病院への30分カバー圏域
- 救急搬送時に通過する勾配の厳しい延長

【現況】2% ⇒ 【整備後】7%(+5%)
 【現況】370m ⇒ 【整備後】0m(全区間改善)

効果3 物流効率化により地域産業を支援【◎】

- ・主要な拠点施設間の移動時間を短縮。
- 石見臨空ファクトリーパーク～三隅発電所の移動時間の短縮

【現況】43分⇒【整備後】23分(約20分短縮)

■費用便益分析結果(貨幣換算可能な効果のみを金銭化し、費用と比較したもの)

B/C	EIRR※1	総費用	総便益
1.3 (1.1)	6.0% (4.8%)	8,469億円※2 (207億円※2)	10,996億円※2 (236億円※2)

注)上段の値は浜田JCT～小月JCTを対象とした場合、下段()書きの値は事業化区間を対象とした場合の費用便益分析結果
 ※1: EIRR経済的內部収益率 ※2: 基準年(令和4年)における現在価値算出のための社会的割引率: 4%

■道路ネットワークの防災機能評価結果

改善ペア数	脆弱度		累積脆弱度の変化量	改善度		評価
	整備前	整備後		通常時	災害時	
25	0.92[C]	0.35[C]	▲204.14	0.09	0.72	○
(6)	(0.41[C])	(0.41[C])	(▲0.06)	(0.00)	(0.00)	(○)

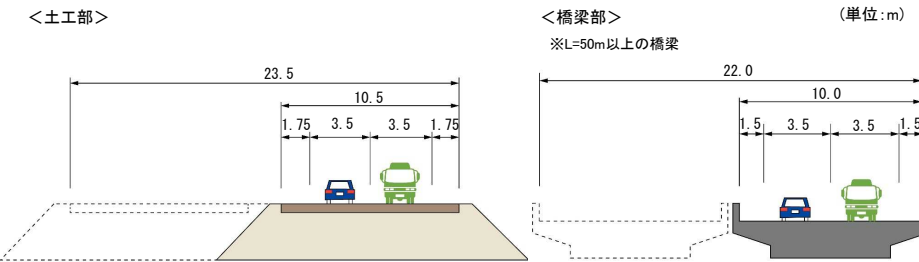
注)上段の値は浜田JCT～小月JCTを対象とした場合、下段()書きの値は事業化区間を対象とした場合の防災機能評価結果



一般国道9号(山陰自動車道) 益田道路(久城～高津)に係る新規事業採択時評価



標準横断図



計画縦断図

